

三重教務所通信

2024



発行人:三重教務所長 長澤 隆司
〒511-0073 桑名市北寺町 47 教務所開所時間 平日 9:00~17:00
☎:0594-21-8000 FAX:0594-21-8010

✉ 三重教務所 E-mail mie@higashihonganji.or.jp

桑名別院本統寺・三重教区HPアドレス <http://mie-betsuin.com/>



三重教区からのお知らせ

◇フォローアップ聞法会レポート

○長島組『同推協 聞法大会－第3回』開催報告

長島組は2022年度10月、第11次特別伝道「本講座2年度目研修」が修了しました。コロナの影響等で延期しながらも開催でき、その後は修了者の方々と組同推協が共に聞法して行く場をどのように開くかが組の課題となりました。そこで11次特別伝道修了を機に組同推協の事業を見直し、推進員という枠にとどまらず、幅広い聞法の間として教区寺院活性化支援室「フォローアップ聞法会」開催助成を基に、年2回の聞法大会を開催することといたしました。2023年2月に開催した第1回聞法大会では、第11次特伝講師の芳岡恵基先生に「聞法とは」という講題で開催し、手探りでその都度反省しながら2023年10月に第2回を、本年4月27日には第3回を開催いたしました。

第3回当日は、以前からの同推協の方々や、第11次特伝修了者をはじめ、その他の組の門徒の方々まで幅広くご参加くださいました。講師には桑名組西恩寺の池田 徹先生をお迎えし、25名の参加がありました。講師からの「真宗門徒とは」という問いかけに、法話後の茶話会では講師を交えながら、様々なご意見、ご感想から親鸞聖人の教えを確かめ合う中で、講師からは「三帰依文の、衆生とともにある「自分自身の背景」を聞法することの大切さ」をお聞かせいただく意義深い聞法大会となりました。

今後も、このような「聞法の間」を試行錯誤しながらではありますが、幅広い方々に開かれた、教えを共に確かめ合える場として相続していけることを願っております。

(長島組 副組長 白木俊正)

◇地域連続法話会レポート

○中勢二組「5カ寺連続法話会」開催報告

中勢二組一部の亀山市内5カ寺（本宗寺、法因寺、正宝寺、養覺寺、超泉寺）が連携して、各寺院の年中行事以外に聞法の間を設け、「新しい人の交流」と「法縁をつなぐ」ことを目的に「5カ寺連続法話会－第2回」が、養覺寺（亀山市三寺町）を会場として4月28日に開催された。

三重教区寺院活性化支援室との「過疎地域連続法話会」開催に向けた協議から端を発し、5カ寺による企画検討を経て、今年度より新規事業として実施されている。概要は組よりも小さい地域で、地域内寺院を巡回開催し、地元の海野真人法因寺住職が連続講師を勤め、宗旨・宗派を越えて多様な人脈に参加（参加費無料）を呼びかけるという新たな試みとなっている。

30名程の参加者の中には、初めて法話会に参加されたという30代～40代の方々も含まれ、4月8日「花まつり」に寄せて釈尊降誕の意義について聴聞された。次回は6月15日（土）超泉寺（亀山市沓掛）にて開催予定。

このような小さな地域での実情や課題を反映する、地元主導による自由に開かれた法話会の開催は、将来に向けた「継続可能な事業」のモデルの一つとなっている。〈高科〉



養覚寺本堂 参拝風景

○三講組西部「本山相続講」真宗本廟団体参拝開催報告

三講組西部8カ寺（覺勝寺・徳圓寺・本光寺・圓琳寺・善長寺・敬善寺・善行寺・明行寺）では年4回各寺持ち回りで「法義相続」「本廟護持」の願いのもと「本山相続講」を開いている。今年度、三重教区寺院活性化支援室より「過疎地域連続法話会」開催の助成を受け、それをもとに部として初めて、5月15日に本山、真宗本廟参拝を実施した。

当日は抜けるような青空のもと、道俗男女総勢32名が参加くださった。参拝接待所でのご法話聴聞の後、職員に説明をいただきながら諸殿（菊門、大寝殿、白書院、宮御殿、紅白歌合戦でADOさんが歌った能舞台もっ！）を拝観した。両堂（御影堂、阿弥陀堂）参拝から御影堂門に上がり、普段は参拝できない楼上の釈迦三尊（釋尊、阿難尊者、弥勒菩薩）像にもお参りさせていただいた。

その後「和敬堂」食堂にて「合掌御膳」をいただき、浄土宗本山・知恩院に参拝し帰途に着いた。

参加者一人一人が阿弥陀仏、お釈迦様、阿難尊者、弥勒菩薩、法然上人、親鸞聖人に出会い、お念仏の教えの伝統の当事者であることを感じる旅になったのではないだろうか。

「一日のたしなみには、あさつとめに、かかさじと、たしなめ。一月のたしなみには、ちかきところ、御開山様の御座候ところへまいるべしと、たしなむべし。一年のたしなみには、御本寺へまいるべしと、たしなむべし」（蓮如上人御一代記聞書）と蓮如上人のお言葉の通りに毎年続けていきたいと思う。（三講組組教導 伊藤 康）



真宗本廟法話（於：参拝接待所）

三重教区寺院活性化支援室では、共同教化を推進するためのサポートも行っています。お困りのことがあれば、三重教区寺院活性化支援室までご連絡ください。

○研修会(公開)のおしらせ 詳細は、三重教区・桑名別院ホームページを参照ください

同和問題に取り組む三重県宗教教団連帯会議（三重同宗連）前期研修会

- ◎日 時 6月14日(金) 14:00～17:00
- ◎会 場 三重同朋会館3階講堂
- ◎講 師 本江 優子 氏(反差別・人権研究所みえ 事務局次長)
- ◎講 題 「なぜ部落差別について学ぶのか? - 部落差別の現状と課題 -」
- ◎参加費 無料
- ◎申し込み 三重教務所まで電話・メールにて申し込みください。
※ 詳細は同封のチラシもしくは三重教区・桑名別院ホームページを参照ください。

真宗門徒の集い

- ◎日 時 6月19日(水) 13:00～16:00
- ◎会 場 三重同朋会館3階講堂
- ◎講 師 藤場 芳子 氏(金沢教区常讃寺副住職 真宗大谷派女性室元スタッフ)
- ◎テ ー マ 「『在家仏教ということについて』
～ 痛みに向き合い 自分らしく生きる ～」
- ◎講 題 『私が私であるために』
- ◎参加費 無料
- ◎主 催 三重教区坊守会
- ◎申し込み お手次の真宗大谷派寺院まで。
後日、組坊守委員がとりまとめをいたします。

6月のテレホン法話

- 6月 1日～15日 …瀬木信弥 氏 (員弁組 了圓寺住職)
- 6月 16日～30日 …伊藤誓英 氏 (桑名組 明圓寺住職)

心をひらく 24時間 いつでも どこでも テレホン法話
☎ (0594) 23-6191

D i a l o g u e (ダイアログ・対話) — 教区教化委員会報告 —

○「差別と人間を考える」協議会

5月20日に「差別と人間を考える」協議会(総会)を開催した。今年度は、例年の事業報告及び事業計画の協議に併せ、「是旃陀羅」問題に関する学習会として、解放運動推進本部より中山量純本部委員、杉山寧本部委員、渡邊誉本部要員が出向し、スライド学習及び学習会の展開に関する説明が行われた。この学習会には、協議会委員及び研修員と共に三重教学研究室研究員も参加した。(21名参



加)

三重教区では次年度（2024年度）以降、各組で学習会を行えるよう、教区教化委員三重教学研究室等と連携しながら協議を行う。

○ 教区坊守会

5月15日、東海連区坊守研修会 当番教区大垣（講師 沼口 諭氏「命を支える医療、いのちに寄り添う仏教」）へ参加した。三重教区からの参加者は23名。

5月21日、教区坊守会役員会を開催した。

最初に、「令和6年能登半島地震」の救援金勧募についての反省をした。当初の予定通り継続して救援金勧募を行う。（第2次締切6月28日）次に6月19日開催の「真宗門徒の集い」（本誌3Pに記載）について、当日の役割等の確認をした。また、『坊守会だより』については、ページ割や内容について具体的な話し合いを書記中心に話し合った。さらに、2023年度の事業報告及び2024年度の事業計画および会計等を全員でチェックし、次年度の坊守会費について協議した。最後に2024年度事業10月開催の現地研修候補予定地などについて、再度協議検討した。

次回役員会は、6月24日（月）13:00～。

坊守会総会は、7月16日（火）。記念講演は折戸沙紀子氏（南勢1組法受寺）



書籍のご案内(東本願寺出版)

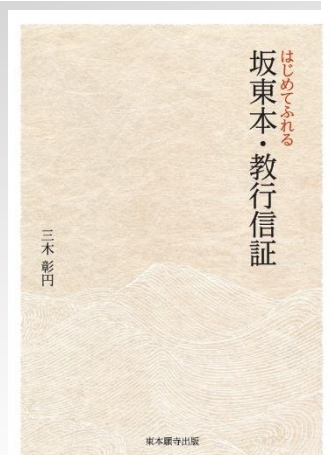
『はじめてふれる『坂東本・教行信証』』

著者 三木彰円 ¥1,650 (税込)

浄土真宗の宗祖・親鸞聖人の主著であり、聖人が晩年まで手を加え続けた自筆本、『坂東本・教行信証』[国宝]。

本書は、はじめての方にもこの書に込められた聖人のおこころにふれていただけることを願い、『教行信証』の概要から、自筆本だからこそ窺える「坂東本」のさまざまな特徴を豊富な写真や図を用いて紹介。

さらに、『教行信証』における重要な三つの序（総序・別序・後序）の全体を大判写真で公開しています。



今月の法語

いつか悲しくなったとき それがあなたの灯台になる

(ヤマシタトモコ『違国日記』)

晴耕雨読（教務所員から）

主計：窪田 昌展

少しでも力になればと思い、宗務役員第 30 次能登半島地震派遣チームとして復興支援のお手伝いに行ってきました。

4 カ月以上経った 5 月 22 日現在でも、珠洲の町は津波や地震で倒壊したままの状態、しかも重機やトラック、ボランティアの姿は見当たりませんでした。その一方で、道路工事をあちらこちらでしており、無理をして何とか道路を通しているという感じで、どこを走っても段差が多く移動が大変な状況でした。

能登教務所のある七尾市から珠洲市までは、のと里山海道が北行のみ片側開通していましたが、それも真っ直ぐな道路ではなく、何とかつぎはぎをして、段差やひび割れが多い道路でとても移動に時間がかかりました。

珠洲の寺院の住職は、役員さんが避難されておりなかなか責任役員総代届が提出できなかった。たまたま帰ってこられたところをつかまえて、ようやく印鑑がもらえたが、またすぐに避難され、役員さんですらお寺の近隣から離れてしまい、なかなか元通りの生活が戻らないとお話をされていました。門徒さんが戻られないことにはお寺の復興も難しい。元々過疎の進む地域だったが、この地震でさらに過疎が 10 年以上

一気に進んだ感じがすると言われました。珠洲の町は震災当時からほとんど景色に変化がなく、毎日その光景を見ている住民から復興に向けた気力を奪ってしまわないかと思われました。

また能登島にある寺院の住職は、市役所職員のため地震当日から召集され、その後も震災対応に追われて、お寺のことまで手が付けられず、ようやく片付けが始められたとおっしゃっていました。あまり多くは語られませんでした。その表情から疲労困憊されておられるのが伝わってきました。そこから運びこんだ災害廃棄物仮置き場では、今なお多くの車が列を作って並んでいました。

竹原能登教務所長は、かつての NGO や NPO、そして新宗教系のボランティアが見えなくなっていく中で、復旧が遅れて過疎が一気に進む地域の方々を見つめ続ける唯一の存在がお寺だと確信しています。本山隊活動最初期からハードなお寺の片付けをお願いしているのは、そのためです。住職たちが心折れないように。見放されていると思うと、心が折れますからとおっしゃっていました。

震災後 3 ヶ月で、2011 年東日本大震災は約 43 万人、2016 年熊本地震は約 10 万人のボランティアが被災地に入っていました。一方、能登半島地震では同時期で約 1 万 4 千人と圧倒的に少ない状況です。

この原稿を書いている最中、なんと大阪万博ボランティア 2 万人を 3 万人に拡充するとのニュースが報道されていました。うーん。。





日	曜	行事内容
1	土	
2	日	
3	月	
4	火	
5	水	特伝協議会 13:30-
6	木	住職・坊守追弔会 11:00-
7	金	合唱団「ひかり」練習日 13:00-(於:間光殿) / 教研月例会 13:30- / 真宗教団連合三重県支部理事会 13:30-(於:高田本山)
8	土	三講組西部地域連続法話会④14:00-(於:本光寺) / 第43回真宗公開講座 14:00-(於:農業屋コミュニティ文化センター)
9	日	
10	月	
11	火	特伝協議会 13:30-
12	水	慶讃常任委員会 10:00- / 教化推進総務会 14:00-
13	木	
14	金	三重同宗連総会及び前期研修会 13:00- / 南勢1組特伝本講座⑤本廟研修(~16日まで)
15	土	中勢2組1部地域連続法話会③13:30-(於:超泉寺) / 連区保育研修会 12:30-(於:ぎふ長良川温泉 岐阜グランドホテル)
16	日	南勢2組2部地域連続法話会③14:00-(於:法専寺)
17	月	教化委員会総会 13:30-
18	火	第3回慶讃事業推進委員会 13:30-
19	水	真宗門徒の集い 13:00-
20	木	
21	金	
22	土	中勢1組特伝本講座⑤本廟研修(~24日まで)
23	日	
24	月	坊守会役員会 13:00- / 教区保護司会総会 16:30-
25	火	同推協役員会 13:30-
26	水	
27	木	児連定例会 13:30- / 児連総会 16:00-
28	金	
29	土	
30	日	

【得度受式者】
 服部 萌 (三講組 圓福寺)
 (2024年5月6日受式)

【住職任命】
 内山 智廣 (桑名組 大信寺)
 (2024年4月28日就任)

【敬弔】
 生前のご功勞に深謝し謹んで哀悼の意を表します。
 土岐 昭潤 (三重組 正樂寺 前住職)
 (2024年5月10日寂)
 (敬称略)

同封書類

- ① ご坊さんだより
- ② 同朋ジュニア大会 チラシ
- ③ 桑名別院暁天講座チラシ及びポスター
 ※ポスターは寺院のみ

6月以降(4ヵ月)の行事予定は、ホームページで公開していますのでご確認ください。

QRコードはこちら➡

